

長い文章を よんで えらぼう

小3／少し長い 文章を よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう

なまえ _____

ひづけ _____

1 リスの ふゆじたくを よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう。

秋になると、リスは木の 実を たくさん あつめます。あつめた 実は、地面に あなを ほって うめたり、木の あなに ためたり します。ふゆの あいだは 食べものが 少なくなるので、その ために たくわえるのです。ときどき うめた 場しょを わすれて しまい、そこから 春に 新しい 木が 生える こともあります。

- 1 リスは、木の あなにも 実を ためて おく。
- 2 リスは、冬の あいだ すの 中で ねむって すごす ことが多い。
- 3 リスは、木の 実の ほかに きのこも ためて おく。
- 4 うめた 場しょを わすれた 実から、木が 生える ことが ある。
- 5 リスが うめた 実は、春に ほり出されて 食べられる。

2 ミツバチの しごとを よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう。

ミツバチは 花から みつを あつめ、すに もちかえって はちみつを 作ります。花から 花へ とびまわる とき、体 についた 花ふんを はこび、花が 実をつける てだすけも しています。1びきの はたらきバチが 集める みつは わずかですが、なかまと 力を 合わせて たくさんの はちみつを たくわえます。

- 1 ミツバチは、花の みつから はちみつを 作る。
- 2 ミツバチは、おしりを ふる ダンスで なかまに 花の 場しょを 知らせる。
- 3 ミツバチは、花ふんを はこんで 花が 実をつける 手だすけを する。
- 4 ミツバチの むれには、女王バチが 1びき いる。
- 5 ミツバチの すは、六角形の へやが ならんでいる。

長い文章を よんで えらぼう

小3／少し長い 文章を よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう

なまえ

ひづけ

1 わたり鳥の たびを よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう。

つばめは あたたかい き節に 日本へ やってきて、す作りをして ひなを 育てます。さむく になると、南の あたたかい 国へ とんで いきます。何千キロも はなれた 場所まで、休みながら とびつづけます。同じ つばめが、次の 年も 同じ 家にもどって くる ことがあります。

- 1 つばめは、雨が ふる 前に ひくく とぶ ことがある。
- 2 つばめは、田んぼの どろを くちばしで はこんで すを 作る。
- 3 つばめの すは、どろと かれ草を まげて できている。
- 4 つばめは、あたたかい き節に 日本で ひなを 育てる。
- 5 前の 年と 同じ 家に、つばめが もどって くる ことがある。

2 サケの 一生を よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう。

サケは 川で 生まれ、しばらくすると 海へ 下って 大きく 育ちます。数年 たつと、生まれた 川に もどってきて たまごを うみます。長い たびの あいだ、たきを とびこえたり、てきにおそわれたり しながら、もとの 川を めざします。

- 1 サケは、数年 たつと 生まれた 川に もどって くる。
- 2 サケは、たきを とびこえながら 川を のぼる。
- 3 サケの 体は、海に いる あいだ 銀色に 光る。
- 4 サケは、たまごを うむと その多くが 一生を おえる。
- 5 サケは、生まれた 川の においを たよりに もどると いわれる。

長い文章を よんで えらぼう

小3／少し長い 文章を よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう

なまえ _____

ひづけ _____

1 たねの たびを よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう。

しょくぶつは 動けませんが、たねは いろいろな 方ほうで 遠くへ 運ばれます。たんぽぽは わた毛で 風に のります。おなもみは 服や 動物の 毛に くっついて 運ばれます。さくらんぼの ような 実は 鳥に 食べられ、遠くで ふんと いっしょに たねが 落ちます。こうして なかまを ひろげます。

- 1 カエデの たねは、はねで くるくる 回って おちる。
- 2 おなもみの たねは、動物の 毛などに くっついて 遠くへ 行く。
- 3 ヤシの 実は、海に うかんで ながされ、遠くの 島へ 運ばれる。
- 4 しょくぶつは 動けないが、たねは 遠くへ 運ばれる。
- 5 ホウセンカは、実が はじけて たねを とばす。

2 こん虫の へんしんを よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう。

チョウは たまご→よう虫（あおむし）→さなぎ→せい虫（チョウ）と、すがたを 大きく かえて 育ちます。これを かんぜんへんたい といいます。いっぽう、バッタは さなぎに ならず、よう虫が だっぴを くりかえして せい虫になります。

- 1 バッタは、草の しげった ところに 多く すむ。
- 2 チョウは、さなぎを へて せい虫に なる。
- 3 チョウの よう虫は、だっぴを くりかえして 大きく なる。
- 4 カブトムシも、さなぎを へて せい虫に なる。
- 5 バッタは、さなぎに ならず に せい虫に なる。

長い文章を よんで えらぼう

小3／少し長い 文章を よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう

なまえ

ひづけ

1 こおりと しおを よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう。

水は0どで こおりますが、しおを まぜると、もっと ひくい おんどに ならないと こおりません。ゆきの ふった 道に しおを まくのは、この せいしつをつかって、道を こおりにくく する ためです。ふゆの さむい 地いきでは、道が こおって すべると あぶないので、よく しおが まかれます。

- 1 さむい 地いきでは、道に よく しおが まかれる。
- 2 雪の 道に しおを まきすぎると、草木が かれる ことがある。
- 3 雪の 道の しおは、くるまの 下を さびさせる ことがある。
- 4 雪の 多い 地いきでは、道に 水を まいて 雪を とかす こともある。
- 5 雪の 道に しおを まくのは、道を こおりにくく する ためだ。

2 雨が できる わけを よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう。

地面や 海の 水は、太陽に あたためられて 水じょう気になり、空へ のぼります。上空は つめたいので、水じょう気は 小さな 水や こおりの つぶに もどって 雲に なります。つぶが 大きく 重く なると、雨や 雪と なって 地上に おちてきます。

- 1 雲の 色が 黒いのは、つぶが 多く あつまっている からだ。
- 2 上空は、地面の 近くより つめたい。
- 3 雲の つぶが 大きく 重く なると、雨や 雪に なる。
- 4 上空の 風が 強いと、雲は はやく うごく。
- 5 雨の つぶは、おちる とちゅうで 形が かわる。

長い文章を よんで えらぼう

小3／少し長い 文章を よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう

なまえ

ひづけ

1 月の 満ち欠けを よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう。

月は自分で光っているのではなく、太陽の光をはね返してかがやいて見えます。地きゅうから見る月は、日によってまるく見えたり、ほそく見えたりします。これは月が地きゅうのまわりをまわり、太陽・地きゅう・月のいちがかわるためです。月じたいの形がかわっているわけではありません。

- 1 月の表面には、大きなくぼみがたくさんある。
- 2 月は、地きゅうに同じ面をむけたまままわっている。
- 3 月は、太陽の光をはね返してかがやいて見える。
- 4 月は、地きゅうよりずっと小さい。
- 5 月は、地きゅうのまわりをまわっている。

2 森の はたらきを よんで、文章に 書いて ある ことを2つ えらびましょう。

森の木は、日光をあびて空気中の二さんかたんそをすいこみ、さんそを出します。木の根は土をしっかりとささえ、雨水をたくわえて、こう水をふせぐはたらきもします。だから森は「みどりのダム」とよばれることもあります。

- 1 森の中は、夏でもすずしいことが多い。
- 2 森の落ち葉は、くさって土のえいようになっっていく。
- 3 森の木は、二さんかたんそをすってさんそを出す。
- 4 森は雨水をたくわえて、こう水をふせぐ。
- 5 森には、たくさんの生き物がすんでいる。